

表22. 岡山ESDプロジェクト評価コメントまとめ

	佐藤真久		笹井宏益		柴尾智子		鈴木克徳		渡辺綱男	
	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント
成果の達成度	A	<p>【肯定的意見】</p> <p>○活動分野の広がり、深まりが顕著に進んでおり、持続可能なまちづくりに繋がっていることが見受けられる。</p> <p>○国内外の関係者と市民等との新たな交流と、それがもたらす地域活動における新たな気づき、活動自体の深まり・広がり大きな成果である。</p>	C	<p>【肯定的意見】</p> <p>○これだけ多様なセクターが様々な事業を展開していることは驚きである。「連携」というものを柔軟にとらえていることは意義深い。できることをできる機関・団体が行うことが重要である。</p>	B	<p>【肯定的意見】</p> <p>○持続可能な地域づくりに関する地域全体の意識や行動の変革を目指す岡山ESDプロジェクトが成果を上げていることを構成団体が認識している。</p> <p>○国内唯一の「ユネスコ/ESD賞」受賞、国内外からの視察の多さ等から、「ESDといえば岡山」というブランディングに貢献している。</p>	B	<p>【肯定的意見】</p> <p>○基本構想の目的、ビジョン等に照らすと、概ね妥当な評価となるが、限られた人員等に照らした場合は、想定以上の成果である。</p> <p>○基本構想の具体的な取組8項目に照らして評価する場合、①～③、⑤、⑥に関しては大きな成果が挙げられている。ユース・人材育成に関しては、様々が活動が企画され、高く評価されるべき。</p>	B	<p>【肯定的意見】</p> <p>○小中学校や公民館が軸となって地域と連携した活動が展開され、学習者や教員・職員の意識・行動の変容につながっている。</p> <p>○活動分野が多岐にわたるようになり、参加組織間の新たな連携が生まれつつある点、国内外の他地域との学びあいを重視して活動していること等が高く評価される。</p>
		<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○インタビュー調査等を通して、各組織が認識しているプロジェクトの成果を、自組織の文脈と見解に基づいて言語化していく必要がある。</p>	<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>なし</p>	<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>なし</p>	<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○④に関し、ユネスコスクール以外の学校にどこまで浸透したかが不明。市民のESDの認知度が下がっており、認知度向上に向けた方策の検討が必要。</p> <p>○SDGsの採択等を踏まえ、企業・事業者の取組促進すること、公民館・CLCの交流の継続強化が必要。</p> <p>○協議会が直接行っている事業の中にも、参加者が小規模なものがあることに留意が必要。</p>	<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○参加組織が個別に活動するだけでなく、地域の様々な課題や目指すべき将来像の共有、協議会活動自体の活動への積極的な参加、企業も含めた様々な組織の参加・連携による地域全体のESDの推進が課題。</p>				
目標の達成度	B	<p>【肯定的意見】</p> <p>○中学校区での学校・公民館が連携した学習や実践活動を実施・展開している点を評価したい。</p> <p>○学校教育分野におけるESDの拡充が見受けられることについても高く評価する。</p>	B	<p>【肯定的意見】</p> <p>○ESD評価の基本は、どのくらい「意識の変容」や「行動の変容」が生まれたかということであり、その意味で「参加者(企業)の規模・広がり」や「参加者(企業)の割合」も重要な指標である。これらの点で地道な進展がみられることは好ましい。</p>	B	<p>【肯定的意見】</p> <p>○丁寧な目標設定を行い、その多くの項目において達成が確認・推測されていることは評価される。</p>	A	<p>【肯定的意見】</p> <p>○岡山ESDプロジェクト基本構想の達成状況、コーディネーター数、学校と公民館との連携が進んでいること、ESDの拠点施設が130を超えていることなど、高く評価できる。</p>	C	<p>【肯定的意見】</p> <p>○岡山ESDプロジェクト基本構想の達成状況、学校や公民館での活動、海外・国内との連携についての達成状況が良好。</p>
		<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○ESDが教育を中心とした営みであると捉えがちであり、社会変容を通じた学びとして十分認知されていないことが、企業などの関係主体の参加を阻害していると考えられる。今後、SDGsに取り組む企業が増えてくることを踏まえると、SDGsとESDの関連性を提示することが、企業によるESDの理解を深め、ESD活動への参加促進につながることを予想される。</p>	<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○なし</p>	<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○評価のプロセスについて、今後、時期を改めてすべての団体が参加しうる何らかの形態を工夫してほしい。</p>	<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○数多くいるコーディネーターがどの程度うまく機能しているかの検証や、学校と公民館の連携をさらに進めていくこと、ESD推進拠点が最近増えていないことの検証が必要。</p> <p>○市民のESDの認知度が低下していることは問題。</p> <p>○企業へのアプローチを強化すべき。</p> <p>○協議会が直接行っている事業の参加者数を増やす他の広報の改善が必要。</p>	<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○地域全体の様々なセクターにまでESD活動を拡大していくことが課題。</p> <p>○人材育成の効果的な進め方の検討が必要。</p>				

実施・運営体制の妥当性	B	<p>【肯定的意見】</p> <p>○ESDコーディネーターの育成プロジェクトを立ち上げ、今後に向けた主体形成と人材育成に向けたしくみの構築と実践を行っている点について高く評価する。</p>	C	<p>【肯定的意見】</p> <p>なし</p>	B	<p>【肯定的意見】</p> <p>○2014年の国連ESDの10年の終了後の事務局体制の大きな変化を超えて事業を進展させた。</p>	C	<p>【肯定的意見】</p> <p>○限られた資源(人員、資金)の範囲内で大きな成果を上げており、また、2014年までの事務局体制が大幅に縮小された中で、活動を維持している。</p> <p>○事務局スタッフの異動を活かして庁内他部局への浸透を進めていることは秀逸。また、ESDの取組初期から継続的に担当する職員がいることが大きな強み。</p> <p>○協議会も多くのステークホルダーを巻き込む体制が維持されてきている。</p>	B	<p>【肯定的意見】</p> <p>○岡山市が総合計画に「ESDの拡大と質の向上」を規定し、独自の条例を制定していること、関係部局間が連携して取り組んでいること、学校や公民館などの機関を軸とした活動が一定の成果を上げていることは高く評価できる。</p>
		<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○岡山ESD推進協議会の参加組織のESDプロジェクト全体への貢献意識が低く、ESDの拡充に向けた組織面や組織間調整、ガバナンス面での取り組みが弱いことが伺われる。</p> <p>○資源投入に対する活動結果を評価するのみならず、実施プロセスを可視化することが期待される。</p>		<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>なし</p>		<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>なし</p>		<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○事務局体制が弱体化する傾向にあることは問題。SDGs、ESDは、今後の岡山市政策の中核を担うべきで、事務局体制の大幅な強化、庁内連絡調整システムの強化・改善が必要。</p> <p>○国際的な活動が従前に比べて限定的になっている。</p> <p>○長期にわたりESDに関わる者がいることは強みであるが、他方で意図的に世代交代を図る必要がある。</p>		<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○協議会事務局を担う岡山市と高等教育機関、中間支援の機能を有する機関、専門的な知識・技能を持つ組織との連携を深め、地域全体で活動を推進していく体制を設けることが必要。</p>
総合評価	A	<p>【肯定的意見】</p> <p>○個々の活動結果はもちろん、その活動による成果や、市内外に対する社会的インパクトを見ることができ、さらには、継続的に協働を実施し、学びを深める実践者の姿が読み取れることから多様な主体の満足度も高いことが予想される。これまでの取組に対して、顕著な成果が見られており、関係者各位に大きな敬意を表したい。</p>	B	<p>【肯定的意見】</p> <p>○多様なセクターが連携し合ってESDプロジェクトを推進しており、その点で他の自治体等のモデルとなる取組である。</p> <p>○ESDが、「持続可能な開発」に係る知識やスキルの習得に加えて、意識や行動の変容を促すことが目的である。この中間報告書がそういった「Learning to be」の重要性を踏まえて、それを主要な評価軸としていることについては、高く評価したい。</p>	A	<p>【肯定的意見】</p> <p>○プロジェクト基本構想策定後に柔軟に対応して、各種基本計画へのESD推進の明記、市の全部署を対象としたESD予算のパッケージ化等の関連施策を展開したところに、当初の想定を超えた広がりがある。</p> <p>○ユネスコ学習都市、SDGs未来都市などの枠組みにプロジェクト活動が「基盤」として関わることで、持続可能な地域づくりのための地域全体の意識や行動の変革がより進めやすくなっている。</p>	A	<p>【肯定的意見】</p> <p>○本事業は、日本を代表するRCE活動であり、2005年から継続して実施されている貴重な事業である。ESDの10年の終了後、事務局体制は縮小したが以前と同様な活動・成果を挙げてきたことは称賛に値する。その一因としては、時期を見据えた基本構想の見直しとその着実な実施が大きく貢献したと評価される。</p> <p>○GAPに代わる新しい世界的枠組みの構築に際し、基本構想のレビューと新たな枠組みの構築を目指すことは大変意義がある。</p> <p>○過去15年間のESD活動は、岡山の名前を世界に広める上で大変大きな役割を担ってきた。この資産を将来に繋げていくことが非常に重要。その意味では、RCEや公民館・CLCネットワークを継続・発展させることには大きな意義がある。</p>	B	<p>【肯定的意見】</p> <p>○岡山市の積極的な姿勢のもとに、学校や公民館を軸に地域と連携してきた活動は、ESDの地域における実践のひとつのモデルと言える。また、そのプロセスや成果を積極的に国内外に発信してきたことも高く評価される。</p>
		<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○中間支援機能を有する属人的なコーディネーターの育成のみならず、これらの組織課題に対して貢献できうる中間支援組織の組織能力強化、中間支援組織間の調整・連携の強化が必要である。</p> <p>○今後、ESDに係るソフト・インフラ(社会関係資本、参加の仕組み、協働の仕組み等)と、ハード・インフラ(制度、社会インフラ等)を関連付けていくことも、今後の「持続可能なまちづくり」に不可欠である。</p>		<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○事業評価はESD評価のためのあくまでも媒介的・手段的なものと位置付けるべきであり、特に事業評価の基本的視点として、「妥当性」「有効性」などのいわゆる「DAC評価5項目」を無媒介に適用していることについては、今後検討を要する。</p> <p>○協議会が直接実施した事業については、個々の事業の目的や内容、携帯などに即して改善を図っていく必要がある。</p>		<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○国内外、市民への情報発信。</p> <p>○公民館が学校と連携しながら展開したESD実践は、日本の公民館関係者により広く周知されることが望ましい。</p>		<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○既に多くの地域で学校や民間等の地域に根ざした組織との連携が図られているが、そうでない地域も依然として残されている。今後、教員に対するESD研修の徹底を図るとともに、学校と地域との一層の連携強化が必要。</p> <p>○SDGsの推進の必要性を踏まえ、企業とのつながりや連携強化が必要。</p> <p>○国際分野での活動を再強化するための体制整備が必要。</p>		<p>【問題点・改善すべき点】</p> <p>○地域関係者が、目指すべき将来像の共有により、地域全体で取り組む具体的なテーマを持つこと等により、参加組織が広範に連携していく仕組みと、それを支える実施・運営体制を設けて、ESD活動を展開していくこと。</p> <p>○地域におけるSDGs達成の取組と結びつけていくこと。</p>

	佐藤真久	笹井宏益	柴尾智子	鈴木克徳	渡辺綱男
提言	<p>原則、ツール・技法、戦略の3側面から以下に示す。</p> <p>(原則)</p> <p>1. ESDの本質に対応する</p> <p>①環境・社会・経済・文化的側面の配慮、②個人変容と社会変容の学びの連関、③ESDの異なる位置づけへの対応、④社会的文脈・状況と連関させた協働を通じた学びあい、⑤持続可能な4つのレンズの活用について踏まえる必要がある。</p> <p>2. 社会生態系の構築を意識する。</p> <p>①社会関係資本の構築、②協働ガバナンスの構築、③協働プロセス、④社会的学習プロセス、各々の能力・機能の有機的連関が重要である。</p> <p>3. 真の課題と解決のあり方を模索していく参画プロセスを構築する。</p> <p>4. SDGsの本質に対応する</p> <p>複雑な問題への対応(テーマの統合性・同時解決性)と、共有された責任としての対応(普遍性・公平性)が必要。</p> <p>(ツール・技法に関する提案)</p> <p>1. 参加のしくみを構築する</p> <p>2. 協働のしくみを構築する</p> <p>3. 中間支援機能を強化する</p> <p>4. 中間支援組織間の連携を強める</p> <p>5. 事業成果の評価軸を再検討する</p> <p>(ESD for 2030の文脈を捉える)</p> <p>ユネスコから示されている「ポストGAPにおけるESDの配慮事項」にも対応する推進体制を構築する必要がある。</p> <p>* 詳細は別添資料参照</p>	<p>現状は、順調かつ適切に進んでいると考える。</p> <p>欲を言えばいろいろなことが言えるが、岡山市の関係機関・団体は、官民間問わず、限られた体制・予算にもかかわらず熱心に取り組んでおり、多くの人たちに対して、Sustainable Developmentに係る何らかの影響を与えているものと考えている。</p> <p>これらの取組のさらなる充実を期待したい。</p>	<p>「ESD」を、市の各種基本計画や、関連施策の中に位置づけすることを、これまで同様、積極的に進めることと並行して、多様な市民の「学び」の部分を引っ張る「プロジェクト」をより充実させる方策をとってほしい。そのためにも、中間報告書の広範に記載されたような、市の基本的統計結果のなかに、「プロジェクト」の成果を読み取るような作業も継続してほしい。そのことによって、市民の学びと行動変容、持続可能な社会へのシフト、といった一連の流れを追うことができる。</p> <p>岡山市のESD推進は「ブランディング」の成功例であると思う。SDGsの更なる浸透、新しい学習指導要領の実施などの動きは、岡山市のESDブランディングの成果をより際立たせるものであり、同時に、ESDの推進の契機と考えられる。</p>	<p>○これまで15年にわたり継続され、大きな成果を挙げた本事業は継続・強化されるべきである。</p> <p>○今後10年間を見通した新たな世界的枠組みを踏まえ、SDGsの実現に向けた人材育成のニーズは急激に高まっている。これまでの実績を踏まえ、次の時代の要請に応えられるよう、新たな基本構想の策定、ESD推進体制の強化が必要である。</p> <p>具体的には、例えば以下のような方策が考えられる。</p> <p>①ESD推進(協議会)事務局の体制強化、特に国際的活動に対応する人員の確保。</p> <p>②SDGs推進を踏まえた企業とのつながり、連携の強化</p> <p>③世代交代を含む、ESD協議会における体制の再構築</p> <p>④SDGs、ESDを内容に含む新学習指導要領に対応できるようにするための、大学や教育委員会を中心とする学校教員へのESD研修の実施・強化。</p> <p>⑤既に多くの地域で連携が進んでいる学校と公民館等の地域組織との連携の市内全域への拡大。</p>	<p>○地域のさまざまな課題を個別ではなく相互に結び付けて活動を展開すること、そのなかで従来、関りの余り無かった組織同士が出会い、新たな連携関係が生まれ、広範かつ柔軟なパートナーシップが形成されていくこと、それが新たなアイデアや提案を生み出し、活動を持続させていく推進力となることが、地域全体のESD活動へとステップアップしていくうえで重要だと思います。</p> <p>○こうした意味から、さまざまな連携の促進が鍵であり、例えばUNDBJ推奨連携事業の認定の仕組みなども参考に、新たな連携を促進していく仕組みを検討しても良いように思います。</p> <p>○また、連携の形や連携によって得られた新たな具体的な成果を明らかにして、それを地域全体で共有していくことも有効ではないかと思っています。</p>